令和元年9月の解説(府県天気予報)

【9月の天候状況】

上旬は、北日本から西日本にかけて、高気圧に覆われて晴れた日が多くなりました。また、南から暖かい空気が入りやすかったことから気温が高くなり、特に6日から10日にかけては真夏日や猛暑日を観測した所が多くありました。8日から9日にかけては、台風第15号が伊豆諸島付近を北上し、強い勢力のまま9日に関東地方に上陸しました。この影響で、東日本太平洋側を中心に大雨や大荒れとなった所があり、千葉県などで広範囲に停電が発生するなど甚大な災害が発生しました。沖縄・奄美は、台風第13号や南からの湿った空気の影響で曇りや雨の日が多くなりました。5日には、台風第13号が宮古島付近を通過したことで、暴風による災害が発生しました。

中旬は、北日本から西日本にかけて、高気圧と低気圧が交互に通過することで、天気は数日の周期で変わりました。また、高気圧や暖かい空気に覆われやすかったため、西日本を中心に晴れた日や気温の高い日が多くなりました。一方で、北日本を中心に低気圧の通過後には寒気の影響を受けた所もありました。沖縄・奄美は、前半は高気圧に覆われて晴れた日もありましたが、後半は低気圧や台風第17号の影響で、曇りや雨の日が多くなりました。

下旬は、高気圧と低気圧が日本付近を交互に通過し、天気は数日の周期で変わりました。台風第17号が20日から21日にかけて沖縄地方を、22日には対馬海峡を通過し、23日に日本海で温帯低気圧に変わりました。その後、24日にかけて北海道付近を発達しながら通過しました。この影響により、北日本、西日本、沖縄・奄美を中心に大雨や大荒れとなった所がありました。また、30日には台風第18号が先島諸島に接近して大荒れとなりました。気温は、暖かい空気の入りやすかった北日本から西日本にかけては、真夏日となるなど高い日が多くありましたが、沖縄・奄美では曇りや雨となり、低い日もありました。

【9月の検証結果】

17 時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は例年値 よりも 1 ポイント低い 81%で、明後日予報は例年値よりも 2 ポイント低い 76%でした。地方別の適中率では、明日予報は北海道、東北、関東甲信、北陸の各地方で例年値を上回りました。明後日予報は、北海道、東北、関東甲信、北陸、九州南部の各地方で例年値を上回りました。

同じく 17 時発表の天気予報による明日の最高気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.2° いさい 1.5° で、すべての地方で例年値よりも小さくなりました。また、最低気温の予報 誤差は、全国平均で例年値より 0.2° 小さい 1.1° で、沖縄地方を除く各地方で例年値よりも小さくなりました。

(注) 例年値は気象庁HP(予報精度検証)内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【11 月の天気予報の利用にあたって】

11 月は冬型の気圧配置となる頻度が次第に増え、北日本や日本海側を中心にみぞれや雪の降る日が多くなります。雪が降れば視界が悪くなり、積雪や凍結により路面が滑りやすくなるなど、降雪量が少なくても交通や生活にとって大きな障害となります。雪の予報や雪に関する気象情報に気をつけて、雪への備えを心がけてください。